東邦学誌第46巻第1号抜刷
２０１７年６月１０日発刊

「伝統と文化」に関する総合的学習の意義についての一考察

－地域の伝統芸能を生かした実践の検証を通じて－

白　井　克　尚

愛知東邦大学

東邦学誌
第46巻第１号
2017年６月
論　文

「伝統と文化」に関する総合的学習の意義についての一考察

－地域の伝統芸能を生かした実践の検証を通じて－

白　井　克　尚*

目　　次

１．問題の所在
２．地域の伝統芸能を生かした総合的学習の構想
（１）地域教材としての伝統芸能について
（２）地域の伝統芸能を生かした総合的学習の目標
３．実践の方法
（１）実践の仮説と手立て
（２）単元の設定
（３）抽出児の選定
４．実践の概要
（１）地域の伝統文化を見つけよう
（２）長草万歳って何だろう
（３）長草万歳について調べよう
（４）長草万歳について情報交換をしよう
（５）伝統芸能への思いについて考えよう
（６）長草万歳をやってみよう
５．実践の成果
（１）仮説の検証
（２）実践のまとめ
６．おわりに

１．問題の所在

平成23年４月１日から新学習指導要領が全面実施された。とりわけ「伝統と文化」に関する教育は、新学習指導要領の重点事項とされた。その改訂の際に、「総合的な学習の時間」においては、めざす児童の資質や能力および態度が明確にされた。すなわち、「総合的な学習の時間」において「伝統と文化」を学習する際には、「自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題

* 愛知東邦大学教育学部

の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」[1]という目標が達成されなくてはならないことが明示されたのである。

ところで、そうした「伝統と文化」についての学習が、「郷土愛」や「愛郷心」の涵養[2]といった意義とともに語られる場合には、一旦の留意が必要である。なぜならば、行き過ぎた「郷土愛」や「愛郷心」は、他地域の文化や価値観の否定につながる場合や、自地域における少数派の存在を差別・排除してしまう可能性があるためである。現在においても、「特定の行政区間を対象とし、そこに郷土愛を喚起し、さらに国家愛へと誘引しようとする手法は、未だ健在」[3]であるということが指摘されている。したがって、「郷土愛」や「愛郷心」の涵養といった学習の意義は、フォーマルな学校教育の場面では、一旦距離を置いて考える必要があり、改めて学校教育における「伝統と文化」に関する総合的学習の意義を、具体的に検証する必要があると思われる。

これまでにも「伝統と文化」を扱った総合的学習の実践は、様々な形で取り組まれているが[4]、上記のような問題意識から、「伝統と文化」を扱った総合的学習の意義について検証したものは少ない。そこで本稿では、かつて筆者が取り組んだ地域の伝統芸能を生かした総合的学習の実践を事例として取り上げ、具体的な子どもの姿から、実践の成果についての検証を行い、地域の「伝統を文化」を学ぶことの意義について考察を深めていくこととしたい。

２．地域の伝統玄能を生かした総合的学習の構想

（１）地域教材としての伝統芸能について

Ｔ市立Ｓ小学校区には、「三河万歳」[5]の系譜を継いだ「長草万歳」[6]という地域における独自の伝統芸能が存在している。Ｓ小学校は、クラブ活動を通じて20年近くもの間「長草万歳」を守り続けてきており、総合的な学習の時間においても、「長草万歳」を教材として継続して取り扱っている。「長草万歳」は、児童にとっても身近な地域の伝統芸能であると捉えられる。筆者は、平成23年度において受け持った小学５年生児童を対象にして、地域の伝統芸能「長草万歳」を生かした総合的学習を構想し、実践に取り組んだ[7]。

【写真１　長草万歳部の活動の様子】

しかし、Ｓ小学校では、地域教材としての「長草万歳」の活用のあり方について、再検討する必要性が生じてきた。一つ目の理由は、「長草万歳クラブ」から「長草万歳部」へと組織が変化し、活動のあり方が変わってきていたためであった。二つ目の理由は、「長草万歳」の保存と復活に中心的に関わり、ゲストティーチャーとして何度も学校に足を運んで下さっていた長草地区のＫさんが急逝され、保存会とＳ小学校との連携手段を失ったためであった。

そこで、本研究では、地域教材としての「長草万歳」を以下のように捉え直し、Ｓ小学校の「総合的な学習の時間」の中に位置づけて、実践を構想した。

＜長草万歳の地域教材としての価値＞

○　身近な地域に根ざした学習として興味・関心をもって取り組むことができる。

○　伝統芸能として地域に残る文化の価値に触れることができる。

○　表現活動としての体験を通じて、言語活動にすすんで取り組むことができる。

（２）地域の伝統芸能を生かした総合的学習の目標

まず、筆者は、総合的学習の実践の目標として、新学習指導要領の視点を参考に、「自ら学び、自ら考え、豊かに表現できる子どもの育成」[8]を課題として考え、めざす子ども像を、具体的に以下のように設定した。

＜めざす子ども像＞

○**自ら学び**　→　問題意識をもち、学習に意欲的に取り組む。

○**自ら考え**　→　根拠をもって、自分の考えや意見をたくさんもつことができる。

○**豊かに表現できる**　→　相手を意識しながら、自分の思いを自信をもって表現できる。

３．実践の方法

（１）実践の仮説と手立て

そして、上記のようなめざす子どもを育てるために、「長草万歳」を生かした総合的学習の実践の仮説と手立てを以下のように考えた。

＜実践の仮説＞

仮説①　子どもが興味をもって取り組める身近な地域教材を取り上げ、出会わせ方を工夫することにより、地域の事象に対して興味関心を高め、自ら学ぶことができるようになるであろう。

仮説②　地域の事象に繰り返しかかわる体験活動や、周りとかかわる活動を継続して行うことにより、問題を解決しながら、自分なりの考えを持つようになるであろう。

仮説③　学習過程において、友だち同士で認め合い、アドバイスをしながら学び合う場面や、相手を意識した発表の機会を設定すれば、自分の思いを豊かに表現できるようになるだろう。

＜仮説のための手立て＞

手立て①

○伝統文化のよさに気づかせる

導入段階では、道徳教材「燃えろ、かがり火」を学習し、地域に残る文化を守り続けることのよさに気づかせ、意欲的に学習に取り組ませる。

○長草万歳の教材化

長草万歳のビデオを提示することで、長草万歳の表現の面白さに関心をもたせる。また、地域教材である長草万歳について、『Ｔ市史』やホームページなどの資料をもとに調べ学習を行うことで、一人一人の興味に基づいた学習を展開させる。

手立て②

○子どもどうしでかかわり合う場を設定する

追究活動などの学習活動の際には、グループ内で感想を交流する場を設定する。子どもどうしでかかわり合うことにより、多様なものの見方に気づかせ、教材に対する考えを広げさせる。

○地域の方に話を聞く機会を設ける

伝統芸能の保存にかかわってきた地域の方に話を聞く機会を設定する。伝統芸能である落語を受け継いできたＴさんや、長草万歳保存会の方に話を聞き、伝統文化を受け継ぐための努力や苦労について考えさせる。

手立て③

○相手を意識した表現活動を行う

調べたことを発表する際には、相手を意識した発表ができるように、クイズや実物提示等の工夫を行うよう、言葉がけを行う。

○言語活動を重視する

追究活動の後に、全体で情報交換する場や話し合う場を設ける。ワークシートに対して、教師が朱書きや言葉がけを行うことにより、自信をもって意見が言えるようにする。また、長草万歳についても繰り返し練習を行い、体験を通して表現方法の獲得をめざす。

（２）単元の設定

以上のような実践の目標および研究計画に基づき、「長草万歳を受け継ごう！」の単元を資料１のように構想した。

資料１　「長草万歳を受け継ごう！」単元構想図

５年３組・三サン「長草万歳を受け継ごう」　単元構想図（全 20 時間完了予定）

地域の伝統文化を見つけよう　②

- 長草万歳があるよ。
- 進雄神社や白山神社のお祭りがあるよ。

長草万歳部の活動（部活動−通年）

・発表を上手に行いたい。

燃えろ、かがり火（道徳）

・伝統文化である鵜飼いを復活させよう。

長草万歳って何だろう　③

- Ｓ小だけに伝わる伝統芸能なんだよ。　発表は見たことあるけど、知らないことが多いな。

○聞いてみよう
クラスのみんな
長草万歳部、家の人

○資料から調べよう
インターネット
Ｔ市史　など

○ビデオを見よう
長草万歳保存会

・長草万歳部に入っているから少しは分かるよ　・お姉ちゃんが大夫をやっていたよ

☆『Ｔ市史』などの資料を子どもに分かるように工夫した自作資料を用意する。
☆ 長草万歳部の活動にも眼を向けるように助言する。
☆ 長草万歳保存会のビデオを視聴し、興味関心を高める。

長草万歳について調べよう　⑥

○歴史
御殿万歳という
Ｔ市では途絶える

○三河万歳
西尾の三河万歳
安城の三河万歳

○衣装と道具
大夫と才蔵
鼓と扇子

○他地域の万歳
尾張万歳
知多万歳

○ 調べたことをまとめよう
○ 情報を交換しよう（パート１）
○ 分からないことをもっと調べよう

☆ 個人の追究に合わせて個別に資料を配布する。
☆ 資料の読み取りを苦手とする子どもには、注目すべき箇所を具体的に示したり、観点を例示したりする。

長草万歳をもっと知ろう　⑥

○伝統を守り伝えることの苦労・喜び
保存会
伝統文化に触れる会

○ 調べたことをまとめよう
○ 情報を交換しよう（パート２）
○ 伝統を守ることの意味について考えよう

☆ 保存会のＭさんからお話を聞くことで、長草万歳を受け継いでいくことのすばらしさを感じさせたい。
☆ 伝統文化である落語に触れ、伝統芸能を行うことの意味について考えさせたい。

○計画を立てて練習しよう

○長草万歳をやってみよう
☆ 練習を積み重ねる中で、伝統を守ることの難しさと喜びを感じさせたい。

長草万歳を発表しよう　③

○ 学年で計画を立てよう
○ 全校に見てもらおう
○ わたしたちにできることは何だろう

☆ 長草万歳のよさが伝わるような発表ができるように、道具や衣装を準備し、支援する。

歌ボラの活動
（特活−６年生）

・ 敬老会や市民館祭りで発表に協力したい。

（３）抽出児の選定

実践においては、A児を抽出児として取り上げ、変容の姿を追うことで、仮説と手立てについて検証していくことにした。A児は、優しく素直な性格で、活動や体験する場ではいつも真剣に取り組んでいる。しかし、友だちの思いを大切にするあまり、自分の考えを主張することに対して控え目なところも見られた。

【資料２　Ａ児の日記より】

９月14日から、16日まで野外活動がありました。私の係は班長で、班をまとめるのが仕事です。私が担当の式は出発式です。朝のあいさつと、出発のあいさつを言いました。夏休みにずっと言葉をくりかえし言って、練習して、リハーサルに合格して、本当にしっかり言えるように練習しました。

でも、９月になって、リハーサルの日が来てやってみると、いつ、みんなを立たせるか、いつすわらせるのかということができなくて、合格できませんでした。先生に言われたことを直して、次の日、職員室へ行ってみてもらいました。とてもきんちょうしました。

それから、たくさん練習して、本番すごくきんちょうして、体がとっても熱くなったけど、しっかり言えました。言い終えて、野外活動が始まったなと思いました。

野外活動の出発式大成功！！

（下線　引用者）

下線部のように、教師から言われたことに対しては、真剣に取り組もうとするが、自分の思いを進んで表現しようとすることに対しては、一歩引いてしまう面が時折見られた。全体の前に立つと恥ずかしい、緊張するという思いから、全体の前で話すことについては、苦手意識を抱いているようであった。

こうしたA児に対して、問題意識をもった追究を通して、自分なりの考えをもち、自分の言葉で語れるようになってほしいと願った。また、調べ学習の発表や長草万歳の練習などの言語活動を通して、さまざまな表現方法を獲得し、表現することに対して自信をもたせたいと考えた。そのような願いをもち、実践に取り組んでいった。

４．実践の概要

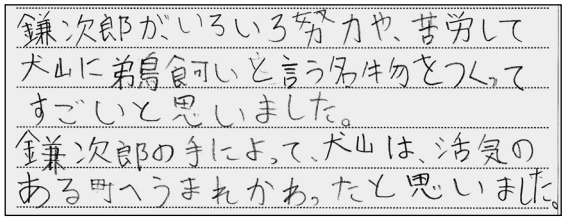
（１）地域の伝統文化を見つけよう

まず、学級の子どもたちに、もっと地域の伝統に目を向けてほしいという願いから、道徳の時間で、「燃えろ、かがり火」を取り上げ、鵜飼いの復活をあきらめなかった鎌次郎の気持ちに注目して話し合いを行った。

本資料は、長い間途絶えていた犬山の鵜飼を復活させようと努力する鵜飼鎌次郎の半生を描いたものである。活気のない犬山の町に鵜飼いを復活させれば、町がにぎやかになるという思いで、一人こつこつと準備を整え、町の人びとに反対されながらも、がんばり通した鎌次郎の姿や、長年の努力で鵜飼いが復活したときの気持ちを考えることにより、地域の伝統を守ろうとする姿に

ついて見つめるきっかけになるだろうと考えた。子どもたちは、鵜飼いをあきらめなかった鎌次郎の気持ちについて話し合いを行った。

子どもたちは、話し合いを通して、町の有力者に反対され、協力者がいない状況でもあきらめなかったのは、鎌次郎に、地域の文化を守ろうとする強い思いがあったからだということに気づくことができた。


鎌次郎がいろいろ努力や、苦労して
犬山に鵜飼いと言う名作物をつくって
すごいと思いました。
鎌次郎の手によって、犬山は、活気の
ある町へうまれかわったと思いました。

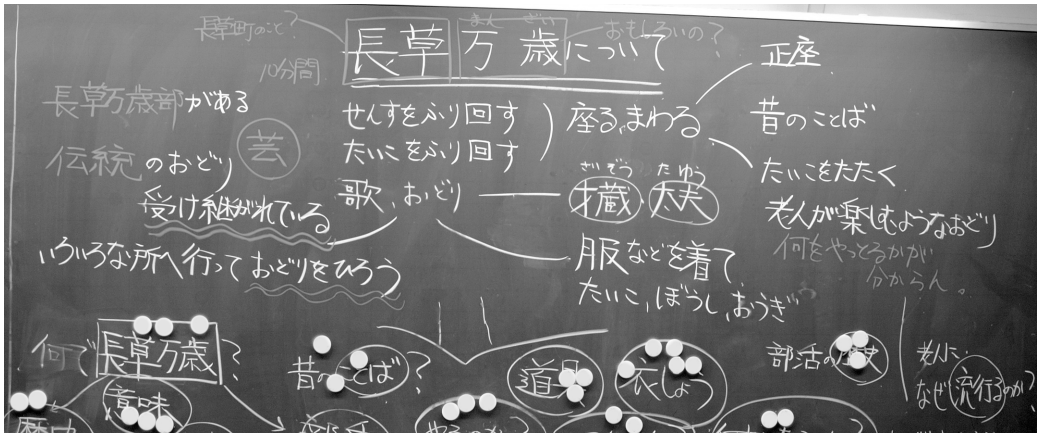
【記録１　Ａ児の学習の振り返り】

Ａ児は、学習の振り返りにおいて、「鎌次郎が、いろいろ努力や苦労をして」地域の文化を守っていったことについて気づいている。この学習をきっかけにして、子どもたちに、自分たちの住む地域に受け継がれている伝統芸能やお祭りについても考えてみようと投げかけた。

（２）長草万歳って何だろう

地域に伝わる伝統芸能やお祭りについて聞いてみたところ、子どもたちから地元の神社のお祭りの話題があがった。長草万歳部の部員であるＡ児が、「長草万歳は、Ｓ小学校に伝わる伝統芸能なんだよ。だからＳ小学校には、長草万歳部があるんだよ」と発言した。昨年度、長草万歳部の経験者であったＢ児も、「敬老会や市民館祭りで見たことがあるよ」とつけ加えた。Ａ児もＢ児も、長草万歳部の経験者なので、「長草万歳」の話題になると、話し合いに意欲満々であった。そこで、子どもどうしで情報交換するため、「長草万歳」について知っていることを出し合う話し合いを行った。途中、疑問に思ったことや意見なども付け加えながら、子どもたち同士で教え合っていった。

写真２は、「長草万歳について知っていること」についての話し合い後の板書である。話し合いでは、「長草万歳について知ってもらいたい」という意識から、積極的に発言を行うＡ児の姿があった。しかし、板書にもあるように、途中から、「長草万歳の長草とは、長草町のことか？」「万歳っておもしろいの？」「何をやっとるかが分からん」「道具は何を使っているのか」などといった疑問も提出され、長草万歳については見たり、聞いたりしたことはあるけど、知らないことも多いという感想をもったようであった。



【写真２　長草万歳について知っていることの話し合い　板書】

みんなが、長草万才についての、ぎもんがいっぱいでてきたので、長草万才についてしってもらいたいと思います。ちょっと長草町についてのぎもんも、しらべてほしいと思いました。

【記録２　長草万歳についての話し合いを振り返って　Ａ児】

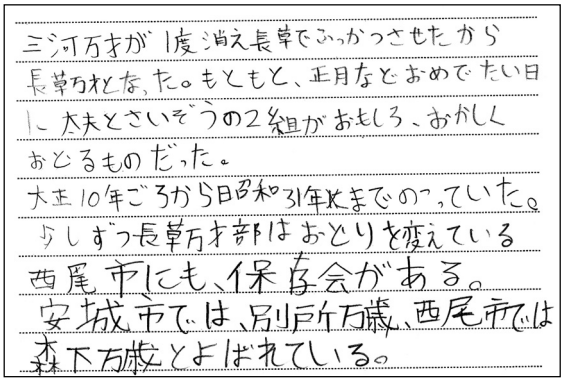
ワークシートの「ちょっと長草町についてのぎもんもしらべてほしいと思いました」という記述からは、長草町についての疑問にこだわるＡ児の思いが分かる。他の児童も同様に、それぞれに疑問に思ったことがあったようであった。そこで、同じ問題意識をもつ者どうしでグループに分かれ、長草万歳について調べ学習を行うことにした。

（３）長草万歳について調べよう

調べ学習においては、一人一人の問題意識に合わせて、『Ｔ市史』や『ほの国通信』の長草万歳が載っている部分をまとめたものを資料として配布したり、「Ｔ長草御殿万歳」のホームページを紹介したり、愛知県内で受け継がれているいろいろな三河万歳を紹介するなどの支援を行った。

調べていくうちに、「先生、Ｓ小学校が載ってる」「ＮＨＫのニュースにも長草万歳が出たんだ」など気づき、長草万歳を自分たちの住む地域に残る身近な伝統芸能として捉える姿が現れた。そして、「言葉の意味が分からないので、もっと調べてそれを知りたいです」「大夫の扇子の動かし方が面白い。どんな道具を作っているのかな」など、子どもたちは、楽しみながら意欲的に調べ学習をすすめていった。

Ａ児は、「長草万歳の歴史」について調べ学習の中で、長草町に住んでいたＫさんが「三河万


三河万才が1度消え長草でふっかっさせたから
長草万才となった。もともと、正月などおめでたい日
に大夫とさいぞうの2組がおもしろ、おかしく
おどるものだった。
大正10年ごろから昭和31年代までのっていた。
少しずつ長草万才部はおどりを変えている
西尾市にも、保存会がある。
安城市では、別所万歳、西尾市では
森下万歳とよばれている。

【記録３　Ａ児による調べ学習のメモ】

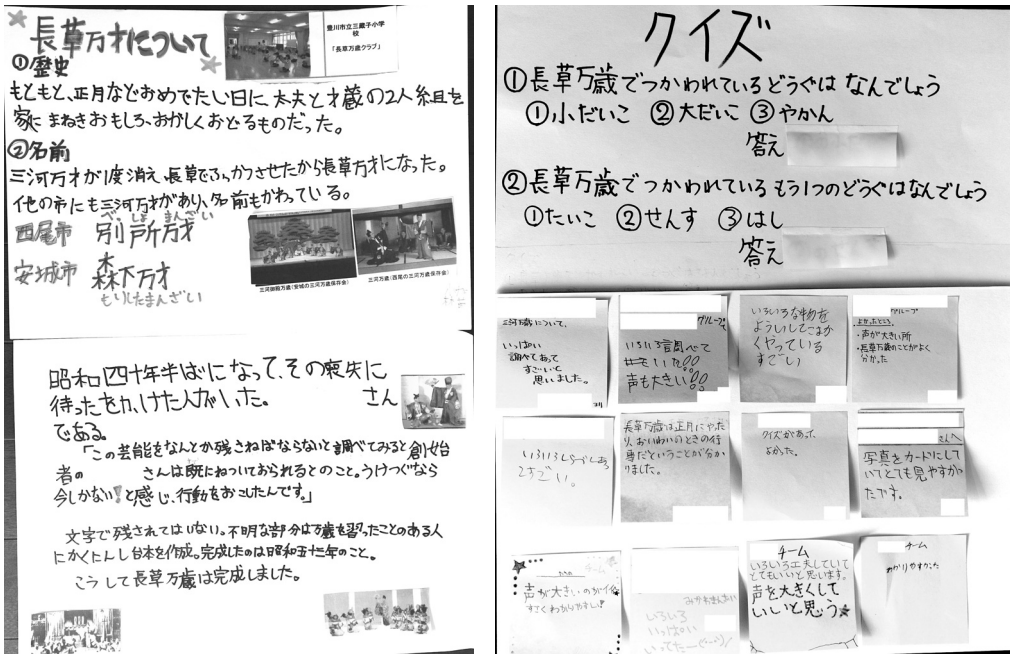
歳」を復活させたために、「長草万歳」と呼ばれるようになったことを理解したようであった。調べ学習では、「分かったこと」だけでなく、「新たに調べてみたいこと」をワークシートに記入させていったため、友だち同士で教え合い、愛知県内各地でさまざまな「三河万歳」が各地で保存されていることについて教えてもらい、地域に残る伝統芸能について関心を広げていった。

調べ学習を通してＡ児は、「長草万歳は世代で引き継いでいかなければならないことが分かりました」と感想を述べた。自分の住む地域に残る伝統芸能を大切に残していきたいという思いを次第に抱いていったようであった。しかし、長草万歳を復活させた地域の人たちの苦労や努力には目が向いておらず、そうした先人の思いに触れさせたいと感じた。そこで、「長草万歳をどうして復活させようとしたのだろうか」と、子どもたちに投げかけ、学習を展開させていこうと考えた。

（４）長草万歳について情報交換をしよう

調べたことを発表する段階では、ポスターセッション形式の発表を行った。ポスターの制作途中には、実際に使う鼓や扇子などの実物を持ち寄ったり、クイズを作成したりするなど、表現の工夫を行うよう教師が声かけを行った。

発表では、声の大きさに注意したり、伝える内容を絞ったりするなど、聞く相手を意識した発表ができた。また、発表を聞く側もかかわり合えるように、ポスターに対して付箋カードを貼り付け、発表の良さを認め合うことができていた。



【写真３　Ａ児による調べ学習をまとめたポスター】

Ａ児の発表を聞いたＣ児からは、「長草万歳は今までに大切に受け継がれてきた伝統的なものであることが分かって、すごいと思いました」という感想があった。たくさんの付箋カードをもらったＡ児は、とても嬉しそうにしていた。そして、こうしたＣ児の気づきを生かすため、「消失した長草万歳をどうして復活させようとしたのか」と、発表後にこの疑問を全体に投げかけ、話し合いを行った。

【資料３　話し合いの授業記録より】

＜「長草万歳を復活させようとしたのは、なぜか」の話し合い＞

T　長草万歳を復活させようと考えたのは、なぜだと思いますか？
C1　伝統を残したいという気持ちが強かったからだと思う。
C2　他の人に受け継いでほしい。
C3　つぶしてしまったらもったいない。
C4　長草町に伝わる伝統芸能だから、がんばって残したい。
C5　Ｋさんが長草万歳が好きだったからだと思う。
C6　保存会の人も増えてきたから、完成させたい。
C7　Ｋさんの強い思いがあったからだと思う。
C8　地域の人に喜んでもらったり、楽しんでもらったりしたい。

話し合いをしていく中で、長草万歳の復活のために、テープに吹き込みながら、４年もかけて少しずつ台本を作っていったというＫさんの苦労や努力の姿が浮かび上がってきた。話し合いを

通じて、先人の苦労や努力について、自分なりに考えを深める様子が伝わってきた。そしてＡ児は、話し合いを通して、次のような感想を残した。

【資料４　長草万歳についての発表を聞いて　Ａ児】

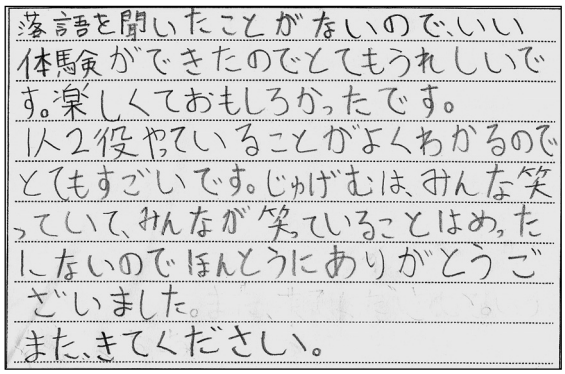
> 今日の話し合いを通して分かったことは、Ｋさんは４年もかかって台本を作ったということです。なぜ、そこまであきらめずにがんばったのか。みんなが言ったように、「伝統を守ろう」という強い思いがあったからだと思います。地域のためにもなったので、すごいと思いました。
>
> （下線　引用者）

このように、Ａ児の「みんなが言ったように、『伝統を守ろう』という強い思いがあったからだと思います」ということばからは、地域の人のために努力や苦労をしたＫさんの生き方について印象深く考えた様子が伝わってきた。

（５）伝統芸能への思いについて考えよう

長草万歳について調べたり、情報交換したりするうちに、子どもたちは、「どうしてもう一度復活させようと思ったのだろう」と、伝統を受け継ぐ人たちの思いについて考えるようになってきた。そのため、伝統芸能を受け継ぐために努力してきた人たちの生き方についても触れてほしいと考えた。そうした際に、Ｓ小学校において、「伝統文化に親しむ会」が開催された。落語家・Ｔさんを招き、落語に親しむともに、伝統芸能にかかわってきたＴさんの思いに触れる機会を設けた。

Ｔさんは、表現することの工夫や技術を身につけるために苦労したことを、子どもたちに分かりやすく話して下さった。子どもたちは、Ｔさんの落語や努力した話に対して、「すごい」と感嘆の声を漏らしていた。学級としても落語を聞いた後、Ｔさんにお礼の手紙を書いた。Ａ児も下のような手紙を書いた。


落語を聞いたことがないので、いい
体験ができたのでとてもうれしいで
す。楽しくておもしろかったです。
1人2役やっていることがよくわかるので
とてもすごいです。じゅげむは、みんな笑
っていて、みんなが笑っていることはめった
にないのでほんとうにありがとうご
ざいました。
また、きてください。

【記録４　伝統文化に親しむ会を振り返って　Ａ児】

ここには、Ｔさんが、分かりやすく落語を演じてくれたことや、「じゅげむ」という親しみのある落語を選んでくれたことへの感謝の気持ちが綴られていた。長草万歳を受け継ぐ思いについて考えてきたことの成果が生きたようであった。

（６）長草万歳をやってみよう

その後の話し合いにより、「長草万歳をみんなでやろう」ということになり、６年生時の敬老会や市民館祭りでの活動に向けて、３学期には、学級全体で長草万歳に取り組むことになった。ある日のＡ児の日記には、三サンの学習において長草万歳を調べたことから、所属する長草万歳部の活動について次のように記している。

【資料５　Ａ児の日記より】

> 今日の三サンの時間にインターネットでＳ小学校の長草万才のことを調べました。そしたら、Ｆさんと、Ｈさんが写っている写真がありました。舞台で発表している動画もありました。わたしのお姉ちゃんが大夫をやっていたときの写真もありました。長草万歳部が長草万歳クラブだったことも分かりました。ごてん万才の意味についても分かりました。長草万才は、やるのはむずかしいけれど受けついでいけないということが分かりました。

Ａ児は、調べ学習を通して、長草万歳に対しての思いを深め、「受けついでいかなければいけない」というように、長草万歳部の活動に対しても意欲的になっていった。ただし、「やるのはむずかしい」とあるように、消極的な面も見られ、表現方法に対して自信がもてない様子も伺えた。以下、そうしたＡ児に対し、所属する長草万歳部における支援を通じた変容の姿についても述べていきたい。

Ａ児は、最初は、歌を覚えて大きな声で歌えるようになることが目標であったが、長草万歳部の６年生やメンバーに教えてもらいながら、だんだん節回しを覚えてリズムに乗れるようになってきた。「七福神が出てくるＣパートが一番楽しい」と、はじめは難しそうだなと思っていたＡ児も、やっていくうちに楽しくなってきたようであった。また、６年生に教えてもらったことで、自分たちも下級生に教えることができるようになりたいという意識も高まってきた。

そこで、長草万歳保存会の人たちを招き、表現技術について具体的に指導していただく機会を設けた。長草万歳保存会のＭさんからは、「伝えるということが何より大事」「やる方が楽しまなくちゃいけない」と声をかけていただいた。子どもたちも、踊りを自分たちで工夫したり、曲調に合わせてゆっくりにしたりするなど、表現の面白さを感じていたようであった。Ａ児も、Ｍさんとは家が近所だったこともあり、「知っている人が来てくれたよ」と、とても嬉しそうにしていた。

それから、長草万歳部は、「Ｔ市芸能交流事業」に招待していただき、地域の舞台において発表する機会を得た。Ａ児は日記において、発表に向けての思いを次のように綴っている。

【資料６　Ａ児の日記より】

今日は、長草万歳部の赤坂の舞台の前日です。今まで練習してきた成果をはっきしてがんばってやろうと思います。
いつもとはちがう場所で、大ぜいの前でやるということなので、きんちょうしています。落ち着こうと思って、一度ＢパートからＣパートまで歌ってみました。これでだいぶ心が落ち着きました。長草万歳保存会の人たちに教えてもらったように、ゆっくりやることと、相手に伝わるように、といったことを意識してやりたいと思います。

（下線　引用者）

舞台では、全員で声をそろえ、生き生きとした発表を見せることができた。中でもＡ児は、堂々と才蔵の役をやり遂げ、とても満足げにしていた。練習を重ねてきた成果と、保存会の人たちにアドバイスをいただいたことが生きたようである。

その後、Ａ児は、「６年生になったら太夫をやりたい」と言うように、自分の思いを堂々と主張していた。６年生の６月に迎えた校区敬老会や地区の市民館祭りでは、太夫となったＡ児の自信満々の歌声が響いていた。

５．実践の検証

（１）仮設の検証

＜仮説の検証＞

仮説①の検証　地域に残る長草万歳を教材化する学習を通して、子どもたちは、興味関心をもって意欲的に学び、郷土愛やふるさと意識を育むことができた。

仮説②の検証　長草万歳について一人一人が問題意識を持って調べる中で、地域に残る伝統文化に親しみを感じ、大切にしたいという思いをもつことができた。また、子どもたちどうし、地域の方との交流を通して、自分なりの考えを深めることができた。

仮説③の検証　相手を意識した発表や、長草万才の練習を通して、表現することに対して自信を深め、すすんで発表することができた。

（２）手立ての有効性について

＜手立ての有効性について＞

手立て①の有効性について

○**伝統文化のよさに気づかせる**

導入段階で、道徳教材「燃えろ、かがり火」を活用したことにより、地域に残る伝統文化に目を向けていった。

○**長草万歳の教材化**

地域教材である長草万歳に対して、関心を抱き、一人一人の興味に基づいた学習を展開していった。

手立て②の有効性について

○**子どもどうしでかかわり合う場を設定する**

話し合い等を通して、子どもどうしでかかわり合い、多様なものの見方に気づき、追究活動を行っていった。

○**地域の方に話を聞く機会を設ける**

地域の方に話を聞く機会を通して、伝統芸能を受け継いでいくための努力や苦労について、考えを深めていった。

手立て③の有効性について

○**相手を意識した表現活動を行う**

友だちと伝え合いながら、グループ内での活動やクラス全体での話し合いを行うことにより、相手を意識した発表や表現活動を行っていった。

○**言語活動を重視する**

活動を通して考えたことを言葉で表現して振り返ることにより、自信をもって意見が言えるようになった。また、体験活動を通して、表現することに対しても自信をもっていった。

本実践を通じて明らかになった地域の伝統芸能「長草万歳」を生かした総合的学習の成果は、大きく次の三点にまとめることができる。

第一に、児童が、地域に残る伝統芸能を体験することを通じて、地域の文化に親しみをもち、自ら学ぼうとする意欲を育んだことである。第二に、児童が地域に残る伝統芸能についての調べ学習や体験を通じて、自分なりの考えを持つことができたことである。第三に、児童が、地域の伝統芸能に触れるなかで、すすんで表現しようとする意欲を育むことができたことである。

本実践の後、給食室から食缶を運びながら、誰からともなく、「陰陽～、鶴に～も、優れ～し、亀に～も、勝れ～し、目出度くも～う」と、自然に長草万歳を口ずさむ声が聞こえてきた。子どもたちは、地域の人たちの活動の姿や、６年生が当たり前のように長草万歳を歌い踊る姿から、進んで学んでいこうとする意欲を育んでいったことがわかる。また、こうした地域教材のよさは、地域の人たちと共に子どもたちを育むことができるところにもある。長草万歳という独自の伝統芸能が地域に残っていることより、他の学校とは異なる地域の伝統芸能のよさについて思いを育むことができた。こうした成果は、学校全体や地域を活性化することにもつながるだろう。長草万歳について、地域の人たちと共に学んだ子どもたちの顔は、意欲と希望に満ちあふれていた。今後も総合的な学習の教材としての長草万歳が、Ｓ小学校の伝統として残っていくことを願う。

６．おわりに

本実践の検証を通じて、地域の伝統芸能を生かした総合的学習により、児童が、地域に歴史的に残る貴重な文化を大切にしようとする思いを育み、伝統芸能のもつ表現の豊かさに親しみをもって理解していったことが伺えた。そのような実践の成果から考えると、地域の伝統芸能を生かした総合的学習の意義は、伝統芸能がもつ「地域性」や「歴史性」あるいは「表現技術」につい

て、体験を通じて学んだことにあったと考えられる。小学５年生という児童の発達段階からしても、「伝統と文化」について学ぶことが、「郷土愛」や「愛郷心」へと単純に結びつくわけではないということも明らかになった。

したがって、地域の伝統芸能を生かした総合的学習のねらいを設定する場合には、「郷土愛」や「愛郷心」を育むということを主目的とするよりも、むしろ、児童の追究活動や表現活動への関心・意欲を引き出すために、地域に残る「伝統と文化」を生かすという視点がより重要になってくると考える[9]。すなわち、「伝統と文化」を総合的学習において扱う際には、「郷土愛」や「愛郷心」を一端相対化し、その地域における「伝統と文化」が持つ「地域性」や「歴史性」、「表現技術」といった教材性を、担当教師がより理解して実践に取り組んでいく必要があろう。学習者が、「伝統と文化」に触れる中で、自ら学び、自ら考え、自分の思いを豊かに表現できるようになることにこそ、地域の伝統芸能を生かした総合的学習の本質的な意義が存在するといえよう。

【注】

1　中村哲（2008）「日本の伝統と文化に関する教育の動向と課題」人間教育研究協議会編『教育フォーラム42 伝統・文化の教育―新教育基本法・学習指導要領の精神の具現化を目指して―』金子書房，pp.44-54

2　本稿でいう「郷土愛」や「愛郷心」とは，自らが育った地域に対して愛着ないし忠誠を抱く思想，心情のことをいう。伊藤（2008）は，郷土を主観的心情的にとらえ，郷土愛・愛国心の涵養を推進したとされる昭和初期の「郷土教育」に関しても，実態レベルでの検証は十分行われていないことを指摘している（伊藤純郎『増補 郷土教育運動の研究』思文閣出版，p.13）。

3　小国喜弘（2004）「国民教育から見た郷土と郷土意識」『史潮』歴史学会，新56号，2004年11月，p.64

4　橋本定男（1999）『地域の伝統芸能を核に総合的学習を創る』明治図書，梶田叡一監修・中村哲編著（2009）『学校を活性化する伝統・文化の教育』学事出版 等を参照。

5　「三河万歳」とは，愛知県の旧三河国地域であった安城市・西尾市・額田郡幸田町に伝わる伝統芸能である。もとは，太夫と才蔵の２人１組となって，主に関東・関西地方を門付して回る正月の祝福芸のことである。

6　「長草万歳」については，市史において，次のように説明されている。「長草御殿万歳は，大正10年（1921）に，村の祭礼で演じたのが始まりである。県内には三河万歳や尾張万歳などがあるが，長草万歳は尾張万歳の系統に属しているものと思われる。二人は正月になると，お目出度い舞として地元から奥三河・飯田方面・静岡東京周辺の家々に招かれ，その家の座敷で舞った。平成４年にＴ市制50周年記念事業の一環として，地元の芸能文化の掘り起こしが計画された。このとき，Ｓ小学校が長草御殿万歳を取り上げ，練習を始めた。現在は，平成５年に発足した「Ｓ小・長草万歳クラブ」の子どもたちによって各地で披露されている。」（一部改変）

7　白井克尚「自ら学び，自ら考え，豊かに表現できる子どもをめざして―５年総合的な学習『長草万歳を受け継ごう！』の実践を通して―」『愛知県総合教育センター 平成23年度小（中）10年経験者研修 特定課題報告書（小４班）』2012年１月，全４頁

8　この「自ら学び，自ら考え，豊かに表現できる子ども」という研究課題は，新学習指導要領で示される「アクティブ・ラーニング」（主体的で対話的で深い学び）の視点にも通じるものであるといえよう。

[9] 佐藤（2009）は，「伝統・文化」を総合的学習で扱う際に，「学習対象を定めるだけではなく，学習事項までを明記すること」を，「牧歌的活動中心主義」に陥らないための要点としてあげている（佐藤真「伝統・文化を総合的な学習の時間でどう指導するか」中村哲『伝統と文化に関する教育の充実―その方策と実践事例―』教育開発研究所，p.117）。

受理日　平成29年３月13日